

# 原発連事務局短信 第 1182 号 2022 年 5 月 25 日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、e-mail:genpaturen@gmail.com

明日 26 日のチェルノブイリデーにご協力をお願いします

## 5・26 原発ゼロ、泊原発再稼働させない、核ごみ NO！ ウクライナに平和を！昼休み宣伝行動

◇日時 5 月 26 日(木)12 時 15 分～同 45 分

◇場所 JR札幌駅北口駅前広場(西側)

◇行動 リレートーク、宣伝・署名行動、横断幕、ノボリ掲示

### 明るい革新道政をつくる会

## キックオフ集会と 2022 年度総会を開催(5 月 22 日)

—鈴木直道道政の 3 年間を検証し、野党共闘で道政転換めざす方針を確認—  
—原発連の堀 一代表委員～原発、核ごみ問題で鈴木道政転換を呼びかける

### 原子力規制委が原発再稼働の迅速化狙う

## 泊原発審査で規制委と北電が前例のないすり合わせ

日本共産党の笠井亮衆院議員は 4 月 28 日、衆院原子力問題調査特別委員会で、北海道電力泊原発に対する審査の問題を取り上げました。

3 月の審査会合で、原子力規制庁が北電に事前に文書で示した論点に北電が回答し、問と答えをすり合わせるような前例のない形がとられました。笠井議員は、「他社への審査で、今回のような形式で回答や整理を求めたことがあるか」と質問。更田豊志規制委員長は「これが初めて」と認めつつ、「認識のずれを解消するためだ。他の審査でも有効であれば展開していい」と正当化。

笠井議員は、泊原発への前例のない審査は効率化＝再稼働推進のためではないかと疑問を呈し、今後の審査次第では審査を打ち切るべきと主張。更田委員長は「おっしゃる通り」と回答。

笠井議員は、自民党が繰り返し原子力規制委に審査長期化の是正や審査効率化を求めていると指摘し、「審査の効率化とは、原発の速やかな再稼働のためではないということでしょうか」と質問。更田委員長は「効率化は必ずしも時間の短縮を意味するものではない」と明言しました。

### 規制委は、すり合わせ審査でなく、審査を打ち切り、申請を取り下げさせるべき

いま世界は、ロシアのウクライナ侵略に伴い原油や液化天然ガスなどの輸入規制と燃料価格の高騰が続いています。このような状況に乗じて、いま財界や電力会社、自民党などから原発推進、再稼働促進へ審査効率化などを求める声が強まっています。福島第一原発事故の最大の教訓＝原発が人間社会と共生できない電源だということを忘れたような大合唱はやめるべきです。

泊原発については、規制委の審査開始から、今年 7 月に丸 9 年になります。しかしこの間、北電は、泊原発で初歩的ミスや単純ミスを連発、敷地内断層の審査に 8 年もかかり、いまだに基準地震動や基準津波、火山対策など肝心の諸課題の審査は残されたまま。とても原発を運転できる資格や能力があるとは言えない状況です。規制委員会は、再稼働の迅速化へ北電と審査のすり合わせを行うのではなく、審査を打ち切り、審査申請書を取り下げさせるべきです。